

シリーズ「パーキンソン病」⑤

パーキンソン病治療薬

国立病院機構和歌山病院

薬剤科 南山啓吾

近年、パーキンソン病 治療薬は新しい薬が次々と開発され、日本におい

でも使用される薬の種類が増えました。患者さんにとっても治療の選択肢が増え、豊かな日常生活を送れることになっていきます。そこで、今回はこれまでの薬の種類と新しく発売された薬について紹介します。

阻害することでレボドパが体内で分解されにくくなるため、レボドパが脳内に届きやすくなり、ドパミンの効果が長く続いてウエアリクン・オフ(長期間服用し続ける)と、薬の効いている時間が短くなる(が改善されます)。

⑧レボドパ賦活薬です。ドパミンの前駆物質であるドパの合成を促進させます。

新しい薬として、①マデニンA2A受容体拮抗薬(商品名:ノウリマスト)。マデニンA2A受容体を阻害し、GABA神経の過剰興奮を抑制することにより、パラ

①エルドパ(L-dopa) (商品名:シンメトレル)です。ドパミン神経細胞からドパミンが外に出るのを助けるお薬です。

②ドパミン放出促進薬(商品名:シンメトレル)です。ドパミン神経細胞からドパミンが外に出るのを助けるお薬です。

③ノルアドレナリン補充薬です。ノルアドレナリンという神経伝達物質も減少して、立ちくらみやその他の原因となりま

④MAO-B阻害薬です。ドパミンを脳内で分解してしまふ「MAO(B)」という酵素の働きを抑える薬です。

⑤COMT阻害薬です。レボドパを体内で分解してしまふ「COMT」(ロムタ)という酵素の働きを抑える薬です。副作用として吐き気や

⑥非麦角系ドパミンアゴニスト(皮下注射薬)(商品名:アポカイン)。薬物療法中のパーキンソン病患者に出現したオフ症状を速やかに改善する有用な薬剤となっています。

以上のようにパーキンソン病に対する治療薬は種類も多く、新しい薬も開発されてきました。まだまだ根本的な治療薬は開発されていません。早く根本的な治療薬がこの世に出るのを期待したいと思います。